

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500294		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム 新賀		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-25		
自己評価作成日	R.3年 3月 22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、消毒やワクチン接種の対応で、時間だけがただ過ぎていただけのように感じる。その中でも、利用者様には、外出や外食、地域との交流もできず、逢いたい家族にも好きなときに逢えず、グループホームにて閉じ込められてしまう日々を過ごしてもらうことに、胸が苦しくなっていた。何か、コロナ禍の中でもできないのか？と考えたとき、家族会で頼んでいたお弁当を何気ない日常で頼んでみたり、車内からの景色を楽しむドライブにでかけたり、ゴミ捨てだけではない敷地内の散歩をしたり、庭でおやつを食べたり、ご家族様とのタブレット面会や少し距離を取りながらの面会だったり、コロナで、今まで当たり前に来ていたことを、形をかえてどうすればできるのかを考えるいい機会になったと感じている。また、グループホーム内で何かをしようと考えたとき、自然と利用者さんとの会話もはずみ、家庭菜園やお花を植えたりと、新賀(おうち)のなかでの楽しみ方を見つけることができた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500294-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

きのこグループの4つのグループホームが肩を並べるように同敷地内に点在し、その中のひとつが「新賀」である。以前は男性の利用者もいたが、今は法人の理事長の方針で「新賀」は女性利用者のみとなっている。介護度も軽度で元気な人が多くリビングも活気に溢れていて、私達は昼食の野菜を下処理中の皆さんに明るい笑顔と挨拶で出迎えてもらった。このホームの伝統になっている毎食手作りの食事は定評があり、畑から採れた新鮮な旬の野菜が食卓に並ぶ。「医食同源」にもつながり入所後に体重の増える人が多いというも頷ける。そして他に類がないくらい素晴らしいのが「アセスメントシート」や「24時間シート」である。この内容からも利用者一人ひとりを大切に思う日頃からの職員の細やかな観察眼や気付きがよく見て取れ、「その人らしく生きることを支援する」という法人の理念のもと、個別ケアに重点を置き、職員が日々積み重ねてきたスキルを遺憾なく発揮しているホームと思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切に一人一人の希望を尊重したケアを提供いたします」を理念とし、いつも目にできる場所に掲げている。利用者様の不安な想いや、希望にも気付けるようスタッフ一人一人が共有できるようにしている。	玄関を入ると理念の額が目に入ってきた。一人ひとりを尊重しその人らしく生きる為の個別ケアを重点に置きながら職員は利用者寄り添う時間を大切にしている。役割や生きがいを持つことへの支援もその人らしい生き方につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍で交流できていないのが現状である。そのなかでも、のこのこ保育園の園児がお神輿を担いで来てくれたりと、交流の機会を増やしていきたい。	地域との交流はコロナ禍で中断されているが、同敷地内にはケアハウスや老健などの法人の施設がいろいろあり、その住人や職員との交流がある他、きのこ保育園の園児達がお祭りごっこやハロウィンで来てくれ、利用者達との触れ合いもあり楽しい一時を過ごして喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を中止しているなかで、資料の交換しかできていない現状である。できているのは、同法人の老健で月に1回行われているリーダー会議に参加し、日々の出来事を報告書にして提出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍で交流できていないのが現状である。コロナがあけて交流したり、意見を聞いたりできるように、考えていきたい。	同敷地内にあるきのこグループの4つのホーム合同で運営推進会議を開催してきたが、コロナ禍の為参集しての会議を自粛(中止)しており、その代わりに写真掲載の活動報告を市の方へ提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは、その都度、市役所の担当者の方を尋ねたり、電話で問い合わせたりするなどして、協力関係を深めている。	運営推進会議は自粛しているため直接市の担当者と話し合う機会は減ったが、活動報告を定期的に行い現状はよく理解してもらっている。また、コロナ感染予防対策等、市の担当者とは何かあれば連絡を取り合い助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の老健で開催されている委員会や、勉強会に参加し、事例検討を重ねグループホームにあった対策を話し合い、取り組んでいる。	身体拘束や虐待を疑うような事実はないが、身体拘束委員会で定期的に話し合っており、スピーチロックを含め何が拘束・虐待にあたるのか職員はよく承知している。外に出たい人の場合には玄関に感知式センサーを設置したり、所在確認をする等、注視しながら見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人の老健で開催されている委員会や、勉強会に参加し、利用者様の状態に合わせてケアの見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護について外部の講師を招いて成年後見制度の勉強会を開催していたが、コロナの影響により勉強会を自粛している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者さんや、ご家族様に書類をみてもらいながら、解りやすい言葉で説明をするように努めている。 改定の際は説明すると同時に書類を送り同意を得るようにしている。疑問点があればいつでもいつてもらえるように声をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会制限があるため、電話や荷物等を持って来て訪問された際には、本人の状況をよりいっそう細かく伝えている。 やりとりした内容は相談記録へ残し、職員間で内容を共有している。	距離を置きながらではあるが、面会時には家族と積極的に話し合い意見や要望を聞くようにしている。また、コロナ禍になってからは、3カ月に1回写真を掲載した手紙「新賀だより」を家族に送り喜ばれている。家族会は開催出来ていないがいろいろな形で話し合うように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	生活するなかでの疑問点や、問題点などをいつでも意見をだしやすいよう職員間でコミュニケーションをとっている。 職員間で解決できない時は、統括責任者へ相談している。	異動等もあり新しい職員も入ったが、有資格者でなくても別の違う視点での意見や提案のメリットもあると管理者が言うように、職員の個性や特性も活かしながら和気藹々と仲良く日々のケアに努めており、上層部へも事務報告しやすく風通しが良いとの事だった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働意欲をもって労働できるように、利用者さんと一緒に職員も楽しめるイベントを計画したり、急な出来事もフォローしあえる関係性ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加し、知識や技術を修得できるようにしている。また経験年数の浅いスタッフには、分からない点などノートに記入してもらい、他のスタッフからアドバイスしてもらう形をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、意見交流が中止になっている。 ただ、それぞれのグループホームが近いのでなかあれば意見交換や交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境のなかで、利用者様が困っていることや不安なこと、要望などが言いやすい環境づくりに努め、そのような訴えがある際には、丁寧に対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族様の不安に思っていること、要望などを聞く機会を設けている。入所後も、ご家族様がお気持ちを言いやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の本人の状態のアセスメントを行い、現状の本人・家族の必要をしている支援をスムーズに導入できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人の人としての自然の交流を行うようにしている。 共に暮らす者同士、畑仕事や家事など協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのつながりを重視している。 本人とご家族様の交流が途切れない支援や、スタッフは本人の望みを叶える協力者としての関係づくりを積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に配慮し、ご家族様、本人のこれまで築いてきた、馴染みの関係が途絶えないように行きつけの美容室に行ってもらったり、知人がいつでも面会できる環境づくりに努めている。	コロナ禍なので直接面会は難しい中でも、月1回必ず面会に来てくれる家族や誕生日にひ孫11人全員が来てくれ庭でハッピーバースデーの合唱してくれたという心温まる話もある。馴染みの関係や家族との絆が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの生活のペースや性格を大切に、他利用者とは自然な交流ができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても気軽に立ち寄って頂ける御家族もいる。又、必要に応じて相談できる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や入所後も、折に触れ本人、ご家族様から要望や思いを聞き、ケアに反映されるように努めている。	アセスメントシートや24時間シートを見ても、職員は利用者一人ひとりの心身の状態をよく見ており、人生歴を把握した上でその人が何をしたいのか、どう暮らしたいのか、その人の思いをしっかりと受け止めようとしているのが分かる。	前回3年前の目標達成計画にも「今の状態を把握する」を挙げていたが、詳細なアセスメントシートや24時間シートには感心させられた。日頃の気付きや観察眼が優れているのだろう。今以上のステップアップに期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や情報提供書、生活歴を参考にしたり、本人や御家族との話の中で知れたこれまでの経緯について記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からひとり一人の過ごし方を気かけ、その心身の状態、有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしさや、本人の要望を叶えるための支援の在り方について、日頃から職員間で話している。また、担当者会議を通して、本人の状態に応じたケアプランの作成に努めている。	アセスメントシートを定期的に作成し、思いや意向を把握しているので、ケアプランにも本人の「自分はこれがしたい」「何をするのが好き」等、意向がしっかりと反映された内容になっている。暮らしの中に楽しみを持てるような支援を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人のご様子や、ケアの実践・結果を積み重ね、記録に残している。記録を読み、工夫やケアの意見を伝え合う場所もあり、職員間で情報共有しながら次の介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの何気ない会話の中での、「昔はよく〇〇していた」、「～してみたい」、「～食べたい」という要望を受け止めている。利用者様の、当GHでのより豊かなものになるよう、柔軟で多様なサービスを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての把握ができていない。どのような資源があるのか、市、社協、地域の機関と連絡を取り合っているよう検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回、エスポアール病院の担当医に診察を受けている。状態によっては他院の専門医を受診できるよう、支援体制を整えている。	同敷地内にあるきのこエスポアール病院から利用者それぞれの主治医3名の往診がある。月1回医療連携で老健の看護師の訪問があり、他科受診は家族にお願いしているが、難しい場合は職員が同行している。医療と介護の連携が良く出来ているので安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが利用者様の生活において変化が見られた時、隣接のGHやエスポアール病院の看護師に相談や連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には医療と連携をし、家族や医療機関と話し合い・情報共有を行っている。また、情報提供書の作成も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な必要があれば相談し、指示をもらえる体制が出来ている。ご家族と話し合いを重ね、意向や思いに添えるようにしている。必要に応じて話し合いを行い、情報共有に努めている。	この2年間はホームでの看取りはないが、現在ターミナルに近い人はいる。重度化したり医療が必要となって老健・特養への移行や医療機関入院で半数以上が入れ替わった。これまでも多くの人を見送ってきた職員達は、その人の人生の最期の時まで心を込めた支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・事故発生時に備えたマニュアルを作成して、体制作りをしている。応急手当に関しては、看護師の指示のもと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っているが、法人内の連携確認はコロナの影響で出来ていない。災害時のために、ガスコンロや水などを備蓄し、年2回確認している。	コロナ前は同敷地内の4ホーム合同の避難訓練を行っていたが、今は単独で行っており、防災マニュアルの確認や避難経路の確認等、机上でのシミュレーションに留まっているが、災害時の法人内での協力体制は取れている。また、地震に備え家具の転倒防止の対策もしっかり施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の価値観、想いを尊重し、それぞれの誇りやプライバシーを損ねないように配慮したり、残存機能を生かしたケアに努めるようにしている。	これまでの生活習慣も大切にしており、ベッドに寝たことないAさんは畳の上での臥床を希望し、毎日職員と一緒に布団を押し入れから出し入れしている。一人ひとりの人格を尊重し、本人の思いに添った対応をしており、言葉遣いにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話、スタッフとの会話の中から思いや希望を聞けるようにし、答えにくい方にはスタッフから話を投げかけ、思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方が自由に過ごせるように配慮を行っているが、「その人らしい生活」を十分に把握出来ていない方がいることも現状である。職員間で話し合いを随時行い、把握出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで、おうちで着ていた物や、身につけていたものを持ってきていただき、グループホームに入居されてからも、おしゃれを楽しめる環境を整えている。また、馴染みの美容室にもコロナが落ち着いたらご家族様協力のもと連れて行っていただきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の苦手なスタッフが増えてきたなかで、利用者さんが先生となり、料理を教えてください。また、季節にあった食材の話から、「今度は、これを作ってみよう」と会話も弾み、料理の幅も広がっていきける。	リビングでは利用者数人がネギのしょうやく中。お昼はテーブルの上のホットプレートで手作りの餃子を焼きながら賑やかな話し声が聞こえる。食事をとても大切にしているこのホームのいつもの光景である。庭のよもぎを摘んで一緒によもぎ餅を作って食べたりと楽しみも多く、入所後に体重の増える人が多いというも頷ける。	このホームの一番のこだわりは食事と聞く。五感(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚)の他、認知、感情、思考、表情、言葉、行動等の全機能を使った人間力も高められると思う。また「医食同源」でもあり、残存能力の維持にも繋がる。この伝統をいつまでも継承して欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何が原因で食べれないのか、ただ欲しくないのかも考えながら、その日の食事量や水分量を把握していく。また、ご家族様の協力を得て本人の好きな食べ物を持ってきていただいたり、栄養ゼリーを買わせていただいたりしている。水分摂取が難しい方には数回にわけて摂取していただく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	コロナ以前は、歯科医と連携して、歯の不具合があれば往診してもらっていたが、今は難しい。 主治医と相談し、受診が必要なときはご家族様に協力してもらおう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	転倒リスクがある場合、用手介助で誘導している。トイレの訴えがある方は、スタッフがすぐ対応できるようにしている。	元気な人が増えたので布パンツの人が半数近くおり、紙おしめ1名以外は紙パンツにパットを併用している。各居室にトイレがあるので自立の人は自分で行くが、個々の排泄リズムを把握して声かけや誘導をして自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、腸に良い品や材料を考えて調理している。 散歩や体操等、身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆず湯やしょうぶ湯に浸かってもらっている。 また、気分を変えるように入浴剤をいれて、かおりや色でリラックスできるようにしている。	入浴は2日に1回としているが、ターミナルに近い人は3日に1回にして清拭等で清潔保持をしている。二人介助が必要な人もいるが殆どの人は浴槽に入る事が出来、皆さん大好きという冬至のゆず湯や5月には菖蒲湯をして喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	カードゲームや塗り絵、折り紙や読書、歌会や散歩などで、身体や頭(脳)を使い動かすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、説明書をいつでも確認できるようにしている。服薬の際には声掛けを行い、服薬後まで確認している。薬が変わった時は特に本人の様子を気にかけて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好み、意向を把握したうえで、本人に声かけをしながら、利用者の声を大切に、日々の暮らしが少しでも喜びのあるものになるように関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出することが難しいが、気分転換のため施設の敷地内での散歩や、ドライブで外の景色をみてもらっている。	笠岡干拓地が近いので、菜の花見学等、ドライブを兼ねて出かけた。広い敷地内の桜や梅の花見をして楽しんでいる。庭に畑があるので土いじりの好きな人には草取りや収穫のお手伝いをしてもらうのも良い気分転換になっており、天気の良い日は日光浴や外気浴を兼ねて病院前の池の金魚を見に行く等、散歩にもよく出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員の方で管理させていただいている。本人に必要な消耗品は買わせていただき、ご本人も残高を確認できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の影響からか、ご家族様からの問い合わせが増えた。その時もだが、本人の状態を細かく伝えるようにしている。 また、定期的にお手紙が届いたり、荷物が届いた際にはお電話させていただきご本人様ともお話できる環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、時期のイベントに合わせた飾りつけを行ったり、季節の花や絵を飾っている。 また、照明器具や空調も快適に過ごせるように、配置や設定を気にかけている。	一般家庭のようなリビングの広さではあるが、2階にもテーブルや椅子、ソファを置いた憩いの空間がある。食事は1階のリビングに全員集合だが、それ以外の時は2階のソファでお喋りしながら寛いでいる人達もいた。落ち着いたインテリア、観葉植物、季節の花々、お洒落な小物類が空間を彩り、居心地がとても良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さんが近くに集まってテレビや雑誌をみたり、レクリエーションができるよう座席を工夫している。 また、ひとりで過ごしたいときには希望を聞けるようスタッフが想いをくむよう支援していく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、本人やご家族様に協力してもらいながら、馴染みの物を持ってきていただき、もうひとつのおうちのような空間をつくっている。 また、ご家族様からのハガキやお手紙がいつでもみれるように飾っている。家族写真や、季節の飾りつけも本人さんと行えるよう担当者に任せている。	あんこおばあちゃんの部屋にはベッドに寝ている目線の高さで、ネコのあんこの写真、ひ孫11人の写真やお手紙が壁に飾ってある。とても大切にしている西洋人形のメアリーちゃんと一緒に入居した人もいて、その人の思いが伝わってくる。9室それぞれ個性が溢れる素敵な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りで、エレベーターも設置している。廊下や階段、居室に設置されている手すりが歩行の手助けとなり、残存機能をすこしでも残せるようにサポートしていきたい。		